問　教育委員会　管理課　☎476-1111(410)

県民週間が行われました

11月１日（火）～７日（月）を中心に県民週間が行われました。ここ数年、制限されていた学校参観も人数などが緩和され、地域の皆さまも各学校を参観することが可能となりました。

各学校においては、学習発表や地域の方々との交流会を設定するなど、コロナ禍前の活動が戻りつつあります。

今後も引き続き、各学校の教育活動へのご理解とご支援をお願いします。

【中沖小のおいもパーティーの様子】

大崎中学校が鹿児島県優秀教職員表彰を受賞！

大崎中学校の「リサイクルネイティブ」の育成を目的とした環境保全活動や生徒の主体的なSDGｓ学習活動に対し、鹿児島県教育委員会から、優秀な取組として表彰されました。開校以来、町内唯一の中学校として、地域の力を活用した教育活動の推進が認められました。

今後も、活動を発展させ、郷土に誇りをもち、地域を支える人材の育成に期待しています。

まなびの窓　おしえの庭　No.74

若い世代に鹿児島弁を託したい

持留小学校　校長　幸福　ひとみ

鹿児島県には、古き良き伝統で、後生に残したいと言われるものが数多くある。その中で、私たちにほっこりとした癒やしやなつかしさをもたらす「鹿児島弁」を後生に残したいと真剣に考えている一人である。

本町に赴任した私には、ささやかな夢があった。それは、鹿児島弁の子供劇団を結成し、どこかの舞台で劇を披露することだった。目的は、大崎町の方々に笑顔と元気をお届けするためである。しかし、ここ二年以上はコロナ禍に翻弄され、そのような機会は皆無に等しかった。

ところがこの秋、町「文化祭」での出演依頼があった。幸運なことに、同じ頃、町社会福祉協議会からも出演のオファーが舞い込んだ。内心嬉しくてたまらなかった。すぐに劇団員を募った。あくまでも自由意志である。すると、二十一人の団員が集まり、早速、昼休みの貴重な時間を使い鹿児島弁による劇練習が始まった。私は、子どもが鹿児島弁を少しでも好きになってくれればという思いだった。しかし、子どもは好きを超えて、鹿児島弁を楽しんでいた。また、初デビューを果たした子どもからは、「楽しかった」「緊張しなかった」という感想が聞かれた。文化祭本番が一番うまくいったからであろう。演じきったという達成感や自信がみなぎっているように感じた。

これからこのような体験を積み重ねながら、折に触れ鹿児島弁の良さを日常生活で共有する場面を増やしていきたい。そのための早道は、現在話せる先輩方が鹿児島弁を使ってくださること。願わくは、若い世代が鹿児島弁を引き継いでくれますように――。